

舟渡高齢者在宅サービスセンター

症 例 概 要 80歳代前半 要介護度4

平成24年10月脳出血により右麻痺、失語症、高血圧症

舟渡高齢者在宅サービスセンター 一般教室（ご利用開始 平成28年4月～現在）

平成28年4月に板橋区へ転居。趣味である自動麻雀ができるとの理由から利用開始となる。もともとは右利きの為、左手で文字を書く練習をご家族と自宅で実践している。身体の機能維持や発語の訓練を目的に開始した個別機能訓練計画の実施から、イラストを描写をご自身で考案し実施。動物や野菜などのイラストを左手で描き貯め、作品集としてデイサービスや地域の展示会に展示する事になり、ご本人の成果が形となり、ご本人及びご家族に感動の一瞬を与えられた。

内 容

平成28年4月より当デイサービスの一般型のご利用が開始。最初の通所目的としては「左手でも趣味である麻雀ができ、楽しみを持つことができること」でした。失語症の為、意思が上手く伝えられず、苛立ちや塞いでしまうことも多い状況でした。ご家族は社会参加をすることで、自身を取り戻し、フレイルしていきたいと強い希望がありました。

当初のプランニングとしては①歩行能力の維持 ②発語の訓練を計画立案し、実践されていました。元々、ご自宅においても左手での文字書き練習に取り組まれており、訓練を継続していく中で、その意欲も更に向上していくご様子が見受けられました。発語の訓練の為に用意した様々なイラストカードを見ながら、最初は訓練通りにイラストに描かれたものを見て言葉でなにかを当てる事を実践していましたが、自主的にイラストカードを見ながらそのイラストを左手で描写する事に発展していきました。これは職員もご家族も驚く発見でした。ご本人の特技の発掘ができたことや、訓練を通じてご本人のやる気が引き出された結果だと感じられます。その後も訓練毎に、自主的に様々なイラストを描写され、30種類以上の動物や野菜を、笑顔で描き続けられました。

この作品の成果を形にしようと機能訓練指導員（OT・看護師）中心に職員一同で考え、一つの作品集として製作し、フロアーに掲示しました。ご利用時はご家族の自己送迎ということもあり、来館時ご家族へお声がけさせていただき、作品をご覧いただきました。ご家族からは「父がこんな事できる（絵を描ける）なんて知らなかった。父の能力を引き出してくれて嬉しい」と感謝の言葉をいただく事が出来ま

した。

その後地域の中学校で開かれる作品展示会への出展の依頼に繋がり、本氏とご家族の同意を得て出展させていただきました。展示させて頂いた中学校の生徒達からも「リハビリで利き手じゃない手でここまで絵がかけるなんてすごい」等の感想文をいただき、他者（学生達）の励みに繋がれたことに対してご本人とご家族は非常に喜ばれました。

ご本人の意欲や自主性の引き出しを主とし、その成果を形にできたことで、ご本人にとって輝きの瞬間を与えられたこと、ご家族に感動を与えられたこと、地域に貢献できた事例であると考え、その功績を推薦させていただきます。